



依頼分析サービスのご案内



学内共同利用機器を用いた依頼分析を受け付けて
おります。装置ごとに担当者が異なりますので
まずは担当者までお問合せください。



FE-SEM/SEM-EDX 依頼分析サービス

■概要

SU9000型 電界放出形走査電子顕微鏡は、世界最高性能の分解能^{*1}を有するインレンズ形のハイエンドSEMです。二次電子検出器(SE)、反射電子検出器(BSE)に加えて走査透過電子(STEM)観察とエネルギー分散型X線分析(EDX)も付属しており1台で4役を担えます。粉末、薄膜観察に加えて切片・断面観察にも対応しています。

*1 :2022年3月時点

■仕様

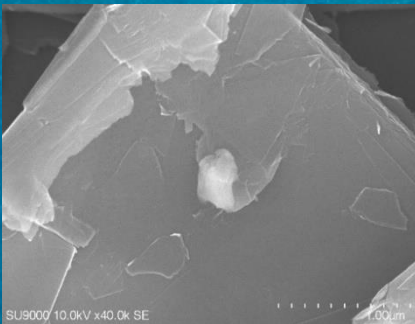
分解能 : 0.4 nm (30 kV) , 0.8 nm (1 kV)
測定モード : SE (二次電子) , BSE (反射電子) ,
STEM (走査透過電子観察) , EDX (元素分析)
測定倍率 : 1.3 K ~ 3000 K
測定可能な試料の形態 : 固体 (粉末, 薄膜, 切片)
* サイズに制限があります (要問合せ)
* 磁性材料は測定が困難です (要相談)

観察条件を打ち合せたのち、本学のオペレーターが観察・測定を実施します。来学立ち会い、リモート (Web会議) 立ち会いも可能です。

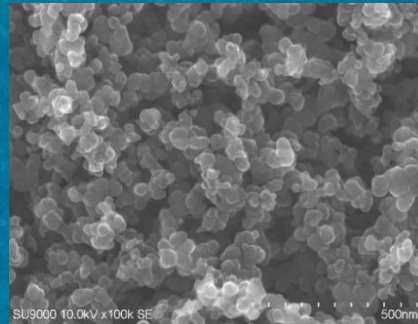


日立ハイテク SU9000型
令和4年2月設置

■分析例 SEM観察

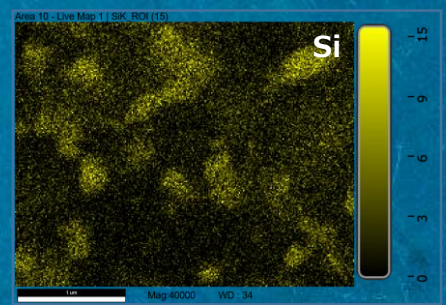
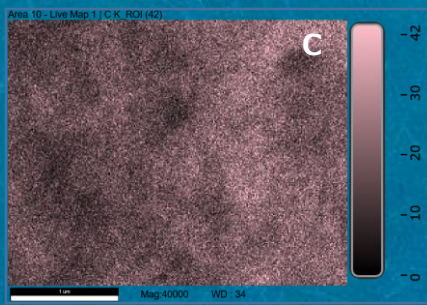
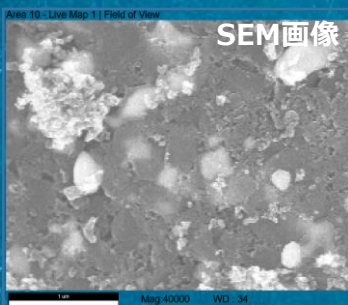


サンプル:黒鉛
倍率:4万倍



サンプル:
カーボンブラック
倍率:10万倍

■分析例 EDX分析 (元素マッピング)



■主な依頼分析実施例

- ・粉末試料の表面形態観察 / EDX分析
- ・粒試料の表面形態観察 / EDX分析
- ・膜試料の表面観察 / 断面観察

■令和4年度利用実績

依頼測定 51サンプル
(うち学外依頼 39サンプル)

岡山大学
自然生命科学研究支援センター
分析計測・極低温部門 分析計測分野

お問い合わせ

担当者連絡先
086-251-8747(中野)

SQUID/VSM 依頼分析サービス

■概要

SQUID/VSMはSQUID(超伝導量子干渉素子)を使用することにより超高感度の測定を可能とした磁気測定装置です。本装置では低温(1.8K)かつ高磁場(7T)を印加した状態で容易に試料の磁気的性質を測定することが可能です。

■仕様

温度範囲：1.8 K~400 K

冷却速度：30 K/min (300 Kから10 K安定状態まで15分)
10 K/min (10 Kから1.8K安定状態まで5分)

磁場範囲：±70,000 Oe (±7T)

最大レンジ：2 emu (DC), 100 emu (VSM)

感度 (VSM)： 1×10^{-8} emu (2500 Oe以下において)
 8×10^{-8} emu (2500 Oe超において)

感度 (DC)： 5×10^{-8} emu (2500 Oe以下において)
 6×10^{-7} emu (2500 Oe超において)

実験条件を打ち合せ(web会議も可能)を行った後
本学のオペレーターが測定を実施します。

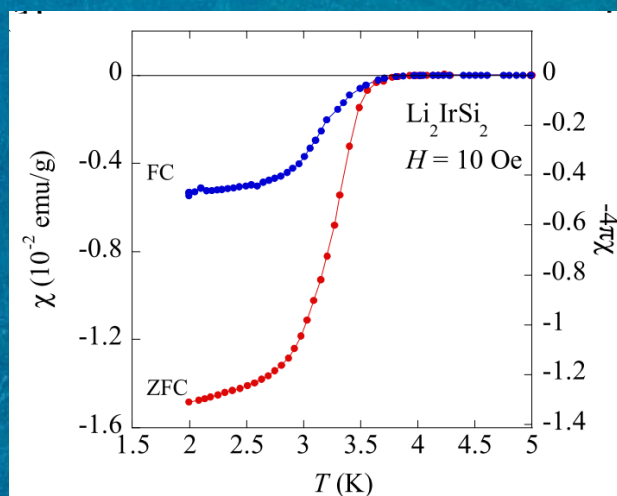


■利用料金

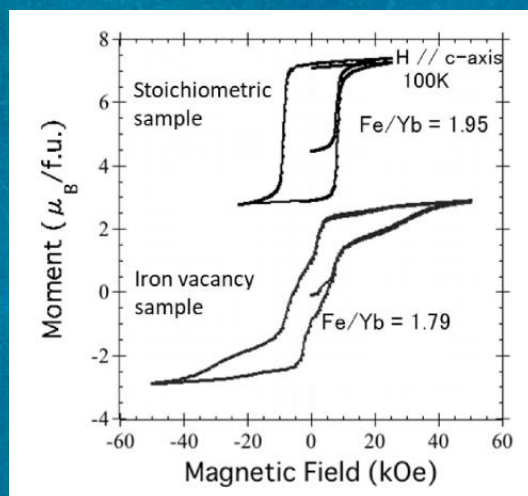
9,900円/日 (学内、税込)

49,500円/日 (学外、税込)

■分析例 M-T測定



■分析例 M-H測定



Li₂IrSi₂粉末試料におけるマイルスナー反磁性
K. Horigane et al., New J. Phys. 21, 093056 (2019)

YbFe₂O₄試料におけるMHカーブのFe欠損の影響
K. Fujiwara et al., JPSJ 88, 044701 (2019)

※測定可能な試料形状やサンプル量は測定温度範囲や試料の磁化の大きさによって異なります。
どのような形状(粉末、薄膜、バルク)の試料の測定をご希望かをご相談ください。
なお、溶液の測定は行う事はできません。

NMR(核磁気共鳴) 依頼分析サービス

■ 概要

Varian社のSystem600は平成22年、JEOL社のJNM-ECZ600Rは令和元年に導入された高分解能NMR装置です。オペレータによる溶液NMR依頼分析サービスを受付けています。有機合成、天然物抽出等で得られた溶液サンプルの構造解析、純度評価にご利用頂けます。

■ System600

oneプローブとオートチューニングユニットを備え、 ^1H と ^{19}F に加え、多くのLF核 ($^{15}\text{N}\sim^{31}\text{P}$) を高精度で観測することが出来ます。昇温測定や低温測定、400MRでは検出の難しい少量サンプルの測定も可能な応用機種です。



Varian社 System 600

■ JNM-ECZ600R

高感度なスーパークールプローブを備えており、より少量の試料で、より短時間で高い分解能のデータが得られます。



JEOL社 JNM-ECZ600R

■ 受託内容

オペレータによる 1次元NMR測定(^1H 、 ^{13}C)

以下の項目については事前相談が必要です

- ・ 1次元NMR : $^{15}\text{N} \sim ^{31}\text{P}$ 、 ^{13}C -DEPT
- ・ 2次元NMR : H-H 相関 (COSY、NOESY、ROESY)
C-H 相関 (HSQC、HMQC、HMBC)
- ・ 温度可変測定: Varian $-80 \sim 80^\circ\text{C}$
JEOL $-40 \sim 120^\circ\text{C}$

元素分析 依頼分析サービス

■ 概要

有機化合物を構成する主要元素を、燃焼分解によって定量的に H_2O 、 CO_2 、 N_2 等に変換し、各成分を熱伝導度検出器を用いてC、H、N等の含有量を求めることができます。本装置では、CHNの3元素または、CHNSの4元素の同時定量が可能です。

■ 依頼方法

測定依頼書とサンプルを 分析計測分野職員室まで提出してください
(測定日：火曜日、木曜日)

■ 試料準備

固体サンプル 10mg以上、液体サンプル 20mg以上。
固体サンプルは十分乾燥して下さい。容器は、ガラス容器でお願いします。

■ 試料番号

サンプルには、試料名ではなく試料番号を付けて下さい。
3桁の研究室番号—2桁の個人番号—3桁の通し番号です。
初めてご利用の方は申込みの時にお問い合わせ下さい。



■ 測定

CHN・CHNS 標準測定：固体の化学合成物質はこれに該当します。

特殊測定：空気中で不安定な試料、燃焼条件を上げなければならない試料、液体試料、植物や土壌の試料、CHNのバランスが悪い試料、ポリマー、活性炭等が該当します。

C・H・N 各々が1%以下の試料の条件検討、その他のご要望があれば、
申込書「その他特記すべき事項」欄へお書き下さい。

■ 結果とサンプルの返却

申込みの時に、ご相談させていただきます。

※注意※

装置のメンテナンスのため、予告なしに業務を中断することがあります。その際にご容赦ください。

専任オペレーターによる CHN、CHNS 元素分析の依頼分析を受付けています。
学内外から依頼をいただき、年間約1,000件を超える分析を行っています。

質量分析 依頼分析サービス

■概要

質量分析装置は、分子をイオン化し、その質量とイオン強度を測定することにより、物質の構造確認や同定および定量を行う装置です。少量の試料で、信頼性のある分子量を測定できます。標品と比較することにより、試料中の物質の特定や定量が可能です。測定目的や試料内容に応じて複数の質量分析システムを使い分けることで、化学・材料系から生物・医学系研究まで、測定ニーズにお応えします。

■イオン源

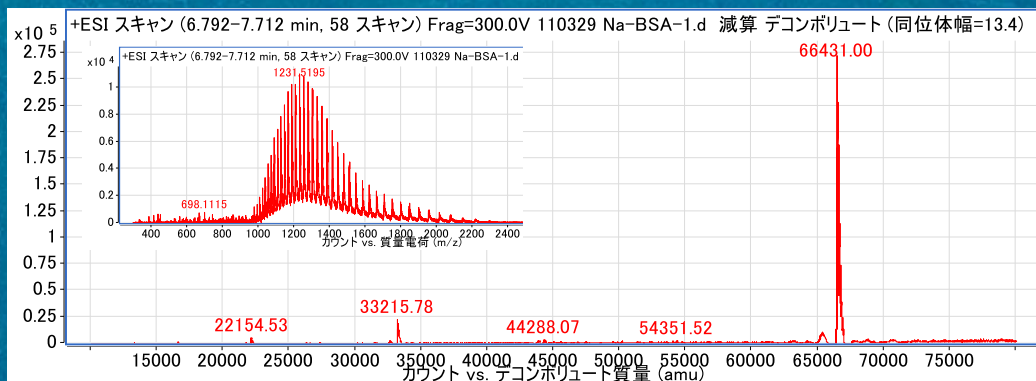
ESI, LC/ESI, APCI, FAB, EI, GC/EI

■分析例

- ・合成化合物（精製品）の質量決定（精密質量測定）
- ・タンパク質等の高分子の質量決定
- ・トリプシン消化物を用いたタンパク質同定（Mascot解析）
- ・化合物・代謝物（精製品）の構造解析（MSMS測定、MSⁿ測定）
- ・化合物・代謝物の定量（LC/MS測定）



■分析例 Intact protein の分析



MSスペクトル、デコンボリュート解析

X線回折測定(単結晶・粉末・薄膜) 依頼分析サービス

■ 概要

単結晶X線構造解析の依頼測定(受託測定)を受け付けています。良好な単結晶さえあれば、詳細な構造解析結果が得られます。また、粉末・薄膜試料も依頼測定を受け付けており、Rietveld解析による結晶構造解析やPDXLを用いた結晶相の同定も行う事も可能です。

■ 使用装置

微小結晶単結晶X線構造解析装置

(RIGAKU社 Rapid-II with VariMax-Cu)

単結晶X線構造解析装置

(RIGAKU社 VariMax with Saturn)

水平型粉末X線回折装置 (RIGAKU RINT-TTR III)

薄膜試料X線回折装置 (RIGAKU Smart Lab-Pro)

RIGAKU社

VariMax with Saturn



■ 主な受託内容

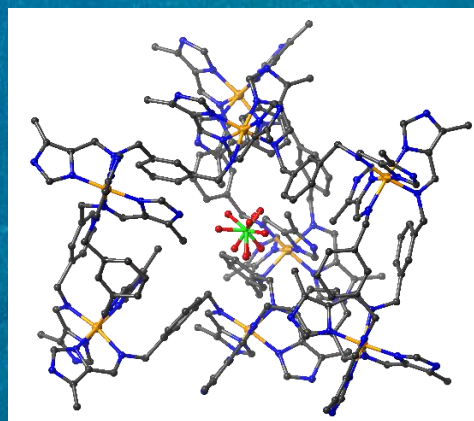
単結晶構造解析

- ・2次元回折像測定
- ・画像データ処理
- ・分子構造解析

粉末、薄膜

- ・プロファイル測定(温度依存性も可)
- ・定性、同定分析(PDXLによるデータ照合)
- ・結晶化度評価分析(非結晶 または 結晶質)
- ・配向性評価
- ・格子定数解析
- ・結晶方位解析

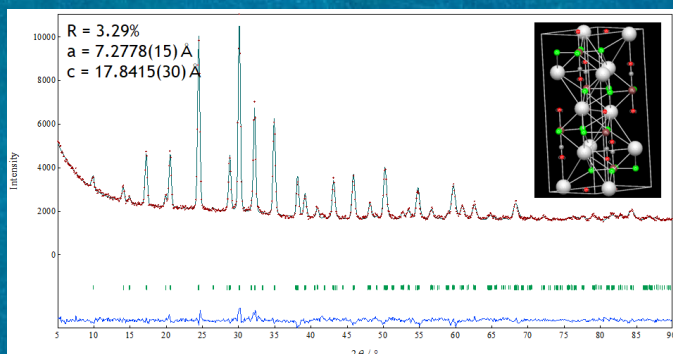
■ 分析例 単結晶構造解析



VariMaxを利用したFe(II)錯体の 結晶構造決定

T. Tanaka et al., Bull. Chem. Soc. Jpn. 93, 427 (2020)

■ 分析例 リートベルト解析(粉末)



Cs₃(Cu,Fe)₂Cl₉のリートベルト解析

■ 令和4年度実績：65サンプル(うち構造解析8サンプル)

※事前にお電話もしくはメールにて担当者あてにお問合わせください。評価目的に応じた測定手法、料金の見積もりなどについて説明させていただきます。

岡山大学
自然生命科学研究支援センター
分析計測・極低温部門 分析計測分野

お問合わせ

担当者連絡先

単結晶構造解析：086-251-8745(砂月)

粉末・薄膜：086-251-8743(堀金)

ペプチドシーケンサー 依頼分析サービス

■概要

数 pmol レベルのタンパク質（ペプチド）試料について、N末端からのアミノ酸配列を 20 残基程度まで自動的に決定する装置です。

■特徴

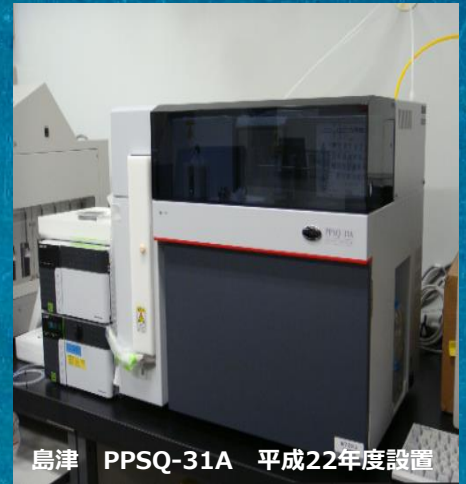
- ・タンパク質そのまま、分析する事が可能です。
- ・まったく同じ質量数を有する Ile と Leu を識別できます。
- ・Disulfide 結合の有無とその位置が決定できます。
- ・決定された配列の信頼性が非常に高く、確実なアミノ酸配列が決定できます。
- ・特にデータベースに登録されていないタンパク質の同定、アミノ酸配列の確定には有用です。

■分析できる試料

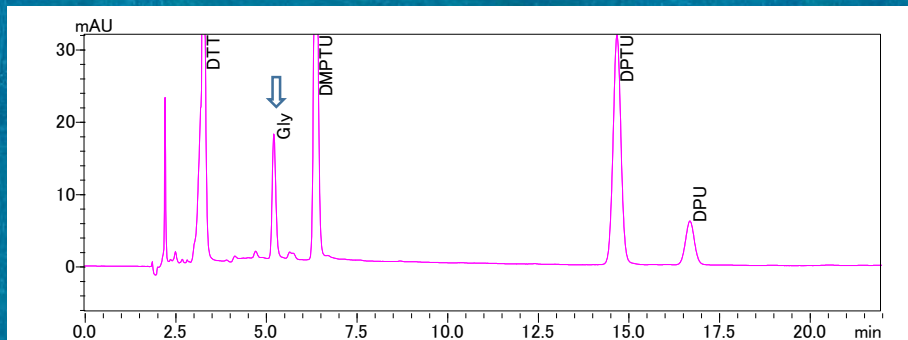
サンプル形態：PVDF 膜にブロットした蛋白質、または液体

サンプル量の目安：読みたい残基数 × 1 pmol 以上

（数 pmol ~ 200 pmol程度まで）



■分析例 Glyの検出



クロマトグラム

■2021年度利用実績

依頼測定 53サンプル

（うち学外依頼 33サンプル）

※注意

- ・高純度に精製されたタンパク質サンプルが必要です。
- ・SDS-PAGE ゲルから PVDF 膜へのブロッティング収率は、10%以下になる事があります。
- ・N末端修飾（アセチル化、ピログルタミル化等）された蛋白質は、そのままでは分析できません。

岡山大学
自然生命科学研究支援センター
分析計測・極低温部門 分析計測分野

お問い合わせ

担当者連絡先
086-251-8748(塩川)

アクセスマップ

■所在地

〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1番1号
 コラボレーション・センター2階 204号室

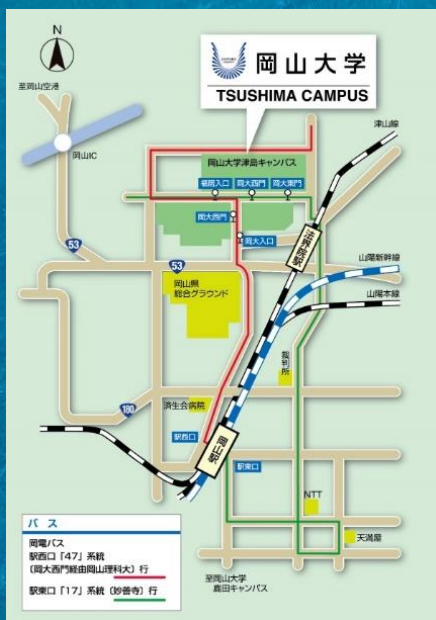


津島地区北キャンパス案内図



コラボレーション・センター2階案内図

■津島キャンパスへのアクセス方法



JR

津山線「法界院」駅：徒歩約10分

タクシー

岡山駅:運動公園口(西口)広場2Fタクシー乗り場から約7分

JR岡山駅 → 岡電バス

1.岡山駅運動公園口(西口)バスターミナル22番乗り場から【47】系統「岡山理科大学」行きに乗車
 2.「岡大入口」、「岡大西門」、「福居入口」又は「岡大東門」で下車
 本線は時間帯により「岡大東門」には停車しない場合があります。
 なお、「岡大東門」へはキャンパス外周を回った後に到着します。
 ※所要時間約7~10分

1.岡山駅後楽園口(東口)バスターミナル13番乗り場から【17】【67】系統「妙善寺」行きに乗車
 2.「岡大東門」、「岡大西門」または「福居入口」で下車
 ※所要時間約30分

1.岡山駅後楽園口(東口)バスターミナル7番乗り場から【16】系統「津高台団地・半田山ハイツ」行き、
 【26】系統「岡山医療センター-国立病院」行き、【36】系統「辛香口」行き、
 【86】系統「運転免許センター」行きに乗車
 2.「岡山大学筋」で下車→大学まで徒歩
 ※所要時間バス約10分 徒歩約7分

岡山空港(航空機) → 岡電バス

1.岡山空港2番乗り場から「岡山駅運動公園口(西口)」行に乗車
 2.「岡山大学筋」で下車、徒歩約7分
 ※ノンストップ便は「岡山駅」で下車、岡山駅からの各種交通機関を利用

山陽自動車道

1.岡山ICで降り、岡山市内方面へ国道53号線を直進
 2.右手に岡山県総合グラウンドの木々が見え始めたら約600メートルで岡山大学筋に
 3.岡山大学の標識を左折すれば、時計台が正面に見え、岡山大学に到着します



OKAYAMA
UNIVERSITY

岡山大学 自然生命科学研究支援センター
 分析計測・極低温部門 分析計測分野

お問合せ

TEL & FAX : 086-251-8748
 E-mail : kikibun@okayama-u.ac.jp

